

平成 18 年 9 月 27 日

群馬会場

於：シムックス

中斎塾準備フォーラム 講話

群馬フォーラムの二回目でございます。

出来るだけ内容を東京フォーラムと合わせたいと思っておりますが、若干変わらざるを得ません。

基本的に時事評論をしたいという事が、本フォーラムをスタートした動機でございます。

今日お配りしたレジメには、目的は「判断基準の確立」と書きました。

この辺りを最初にご説明しながら、進めさせて戴きます。

今日は安倍内閣のスタートで、朝からテレビや新聞が賑やかなものだと感じながら参りました。

肝心な事は、我々一人一人が新聞を開いた時やテレビを見た時にどう受け止めるのか、どのように判断するかです。

その判断基準をご自分で持っていると思われるのですが、それが良いかどうか・・・。

或いは少し違った判断基準があるのではないかと・・・。

自分の心の中に合致するものがきちんと備わっていくかどうか、そのあたりを自問自答し、更に良いものを見つけていきたいと思っております。

判断基準は<本質・大局・歴史>の三点から見ます。

そうすると、安倍内閣がどのような使命を持って生まれた内閣なのか、本質的に見る必要があります。

次に大局は、安倍内閣を誕生させた原動力は何であったか。

自民党の方々はどうのように安倍内閣を見たのか。

又、安倍さんを応援した政治家達の思惑、或いは官僚の思惑を推察する必要があります。

そしてマスコミはどう見たのか。

一般国民はどう見たのか。

国外を考えて、それぞれの国はどう見ているのかという観点も必要だと思っております。

或いは今申し上げたような方々とは違う、例えば環境問題で物事を判断しようとしてい

る人達、南北問題で物事を判断しようとしている人達、NPO団体の人達が掲げているものの見方、宗教の視点でものを考える人達・・・出来る限り色々な立場の人達の、もの考え方を推しはかってみる必要があるでしょう。

色々な立場でものをみる事によって、大局観が見えてくるのです。

歴史の場合は、過去の日本の歴史を見ます。

60年前の日本はどうだったか、120年前はどうだったか・・・60年60年と遡っていきながら、自分が今の時代に酷似していると思う時代を見据えて、現在を考える。

そうするとこれからの近未来も見えて来ます。

歴史という縦軸で、今の内閣の使命は何か、という問いかけが必要です。

<本質・大局・歴史>の三つの視点で物事を見ていくと、自ら判断基準が生まれて来ると思います。

それらを木内信胤先生は「総合的直観力」と表現しました。

「総合的直観力」で肝心な事は、出来る限りの情報を自分の眼で、自分の耳で集める事です。

それをどんどん蓄えていけば、ある日突然花が開いて、これが自分の判断基準だと思えるものが生まれて来ます。

私が判断基準を世の中に提供しなければならなかった最大の動機は、安岡正篤先生が出された「暁鐘」という言葉です。

これは陽明学です。

王陽明が「睡起偶成」の中で、<拝金主義に毒されて、このままでは国が危ない。何とか世の中の人を目覚めさせたいものだ。自分はもう老体でそう長く生きてはられないが、気が付いたのだから世の中に警鐘を鳴らしたい>という思いで、最後の人生に花を咲かせたわけです。

それを紹介した安岡正篤先生の人間学。

これらが中斎塾フォーラムをスタートさせた経緯でございます。

今日お話ししたいのは、先月ロシアに行って来ましたのでロシアで見聞きした事、それからロシアに行きたいと思った理由は、今の日本とこれからの日本に対する危機感を感じているからですので、それについてお話し致します。

又、今の世の中は腹の立つことが多いですから、『百朝集』から「腹を立てぬ呪文」を紹介致します。

そして先日の東京フォーラムでもお話しした民俗経済学についても、少しお話ししたいと思っています。

これらの観点で、安部内閣スタートについての時事評論も若干したいと思います。

では先ず、ロシアで見てきた事をお話し致します。

ロシアに行く前に私は、或る方から「ソ連が解体して、生き延びた人達はだいたい 5 つぐらいのパターンだった」とお聞きしました。

第一は、ルーブルをドルに変えて外貨預金が出来た人達です。

「日本円で 1 億円くらいのお金を外貨預金したら、ほとぼりが冷めて帰って来た時には 1000 億になっていた」という話でした。

第二は、別荘を持っている人達が生き延びられたという事でした。

第三は、農業で生計を立てている農家の人です。

第四は、売春で稼げる娘がいた家庭です。

第五は、マフィアになった人達です。

・・・これらがどこまで本当か、ロシアで調べてみたいと思いました。

又、経済が破綻した国は自殺者が多かったという事なので、実際にロシアでどれぐらいの自殺者がいたのだろうか、疑問でした。

ロシアに行って、それぞれの答えが腑に落ちました。

お会いした人は、サンクトペテルブルク総合大学の日本科の教授、モスクワ日本人会の人達、社団法人東欧貿易協会の人、日本からモスクワに留学している留学生、現地に住んでいる方々・・・こういった方の話を聞いて、又、資料を手に入れました。

その結果を申し上げます。

「日本円で 1 億円くらいのお金が 1000 億になっていた」という話ですが、実際に計算したら 2017 倍でした。

その生活実感をお聞きすると、「不動産は、去年買えば今年は倍になる」という事でした。

10 年前に家を買った人は、10 倍になっているそうです。

「十数年前に家を買ったお金で、今食料品を買おうとすると、黒パン 1 枚すら買えない」と言っていました。

凄まじいインフレでした。

別荘については、農地解放だと感じました。

国に土地が欲しいと申請すると、1 年か 2 年後に土地が無料で貰えるのだそうです。

モスクワ市民は今 1100 万人位いるそうですが、その内の 3 分の 2 はそういう土地の取得

方法で土地を持っているのだそうです。

しかし日本で考えているような別荘ではなく、国から郊外に土地を分けてもらって、そこに掘っ立て小屋を建てて、作物を作って生き延びたようです。

驚いた事に、作った食べ物を自分の家族が食べるのは当然ですが、親戚縁者で分け合っ
て食べ、尚且つ知人が困っていたら食べさせてあげるといふ日本における昔の村落共同体
のような相互扶助の仕組みがソ連の時代に出来上がっていて、それが機能していました。

資本主義の台頭と共にそれが今崩れつつあるようですが、それによって生き延びたのだ
という事も大変驚きました。

売春については、自分から自発的に行ったようです。

マフィアについては、今や麻薬ビジネス花盛りでした。

非合法の闇社会が当たり前のように機能し始めて、それが一般市民にも浸透しているの
だと感じました。

疑問点は全部納得しましたが、分からなかったのは自殺者です。

明確な自殺者の実数は出ていませんでした。

しかし日本に帰って来てから、ソ連を研究している方が計算したものを聞きました。

その方は寿命から追いかけて、「4000万人は人口が減っている」と言っておられました。

現地の方に聞くと、食べるものがなくなって、寒い所ですから質の悪いウォッカを飲ん
で、陶然として凍え死んでいく人がもの凄いな数だったそうです。

総合してみると、4000万人というような数字は言えないけれども、1000万人単位で死ん
でいると実感しました。

社会主義は<働かなくても食べられる>という基本で、どんどん分け与えられていたけ
れども、資本主義に変わって<働かざる者食うべからず>の世界に変わりました。

働かないで食べようとした人達は生きていけないので、ウォッカを浴びながら死んでい
ったというのが現実のようです。

モスクワの人口がここ2年で急激に200万人増加したのは、ツンドラにいる人達が食べ
られなくなって、どんどん都会に殺到している状況だと感じました。

私は20年前にソ連に行ったのですが、その時の印象は、商店の棚がガラガラで食べ物
が本当に少ない国だと感じました。

ものを買う人は行列していて、レジ係りはお客さんそっちのけでお喋りをしているとい
うようなあり様でした。

今回行ってみて、行列を作るのは相変わらずでしたが、出来るだけ早くお客さんを捌こ
うとしていました。

資本主義はどんどん進出して来ていて、お客様に対して笑顔を出そうとしている事も分かりました。

ただ怖いと思ったのは、資本主義の理解の仕方が、〈お金儲けは駆け引きで、いくらでも取れる奴から取るのが普通なのだ〉という解釈をしているのです。

マクドナルドはあるし、ケンタッキーフライドチキンはあるし、コンビニもあるし、おなじみのものが沢山ありました。

これだけ資本主義社会が一気に広がっていました。

お金があれば何でも買えるという思想が、この国にも広がっているとは思っていませんでした。

拝金思想は一気に人の心の中につけ込んで行くものなのだ、という事を強く感じました。

私が何故ロシアに行ったかと申しますと、日本も同じ道を歩むと思うからです。

以前から言っているように、日本は2008年から2010年くらいには経済破綻すると思っています。

それがだんだん近づいて来た。

経済破綻が始まったなと誰の心の中にも感じられた瞬間から、世界恐慌になるかどうかまでは分かりませんが、明確に自分の家庭生活や会社の防衛をスタートさせなければいけません。

そこで最近経済破綻した国はどうなったのかを見たいと思って、ロシアに行きました。

結果としてロシアは、死んだ人が多かったと感じました。

これは食べるものがないからだ実感しました。

もう一つは、一つの仕事だけしていたのでは飯が食えない時代に入っていると感じました。

私に話をしてくれた大学教授は、4つの仕事を掛け持ちしていると言います。

1日16時間の労働で4つの仕事をまともにこなすのは、とても大変です。

昔、行ったブラジルでは、まともに一つ一つの仕事をこなそうとは思っていませんでした。

4つ5つの仕事を掛け持ちしていましたが、一つの仕事をかなり手抜きでこなして、食べていました。

ロシアは経済が破綻して比較的に日が浅いので、まともに仕事をしようとしている。

この違いがありました。

日本人もこれからは、一つだけの仕事では生きられないと思います。

仕事を2つ3つ掛け持ちせざるを得なくなります。

食べ物は自給自足をしなければいけません。

お金は日本円だけで持っているのでは危ない。

こう実感しました。

ですから私は、年内にアルゼンチンに行きたいと思っています。

理由は、外貨預金をどのようにアルゼンチンに処理したのか、知りたいと思っています。

その次はトルコに行きたいと考えています。

それもこれも、どのようにこれからの日本は変わっていくかという事を気にしているからですし、これからの日本でどのように生き抜くかという命題があるからです。

ネバダレポートをご存知でしょうか。

今回再度登板した柳沢大臣が金融再生大臣をしていた時に、国会で答弁したものです。

日本が経済破綻した時に、IMFが入ってくる事を前提に、IMFの調査団と日本の閣僚が相談をして作られたものと言われています。

内容を申し上げます。

国家公務員・地方公務員の給料は30%カット、ボーナスは例外なくカット。

公務員の退職金は全額カット。

年金は3割カット。

消費税を20%にする。

公共事業は全面凍結。

資産税を導入し、銀行に預けてある預金については、一律3割没収する。

年収100万円以上の人からも税金を取る。

・・・これらがネバダレポートの骨格です。

それに近い事を小泉さんは進めて来ているわけです。

これからの日本を、このネバダレポートを参考にして考えてみると、どう考えても消費税は上がるでしょう。

税金も色々な名目を付けて上がる。

物価はデフレスパイラルとハイパーインフレが共存しますから、お金は供出をさせられ下ろせなくなります。

何度もお話ししていますように、60年前の日本がそうでした。

自分の今持っているお金を、全部銀行に預けなければならなくなる。

預けたものは凍結されて下ろせなくなる。

下ろせるようになった時には、もう紙くず同然になってしまう。

ですからどうしても我々の防衛策としては、現金を持っておく必要があるでしょう。

ただ現金が使えなくなる事を前提にすると、どうしても自給自足体制の道を作る必要があります。

農家の方々とも接点を持っておく必要があるでしょうし、外国にも自給自足の生活をするための手立てを講じておく必要があるでしょう。

又、外貨預金もしておくべきでしょう。

消費税も上がるし、それ以外の税金も上がるとなると、当然申告の仕方も変わってきます。

こういった防衛体制を作るのに 3 年はかかるでしょうから、今のうちから少しずつ準備を始めておき、遅くても 2010 年には大体自分なりの準備ができたという状況にしておかなければ怖いと思います。

ただ日本はロシアのように一変にひっくり返るわけではありません。

ずるずる少しずつ悪くなっていく。

それぞれがそれぞれの立場で、自分なりの飛び出すための力を持っておく必要があろうと感ずります。

それが今の日本とこれからの日本です。

では、『百朝集』の「腹を立てぬ呪文」をご紹介します。

お手元にコピーをお付けしました。

これからどんどん世の中は乱れるし、心が荒んでくると感ずります。

その時に自分の心が荒まないように、ニコニコしながら生きていくことが大切です。

その時に役に立つと存じます。

「おんにここにこ はらたつまいぞ そはか」

これは、明治初年禅門の耆宿、西有穆山が老婆に聞かれて教えた真言陀羅尼です。

人間腹が立った時は、自分の分別を失います。

その時に沸騰した頭を収めるのに唱えると良いおまじないですので、頭の中に入れて戴くと良いと感ずります。

「おんにここにこ はらたつまいぞ そはか」を自分なりに活用して、その場しのぎで腹を立てないで済んだというのではなく、相手の立場も分かって、納得して腑に落ちて腹を立てなければ、ストレスも溜まらないと感ずります。

自分の立場プラス相手の立場まで呑み込んで、<これは無理ないな・・・>と納得して

ストレスも溜めない状況が、まさに論語の「耳順」だと思います。

では、日本民俗経済学会について申します。

最近私は、日本民俗経済学会というものに関係をしています。

<従来の経済学は旧来の学問であり、学問とは言えない>と、ケインズとは異なる経済学を提唱している方々の集まりです。

具体的には地域経済学、国家経済学だと思います。

日本は日本だけに通用する経済学でなければならない。

又、その地域のみ通用する経済学でなければならない。

グローバルという事はありません。

世界が同じ指標で判断していく事は、非常に危険であるという考え方です。

例えば食で考えてみると、やはり人間は旬のものを食べるのが良いでしょう。

そして、その地域で取れるものを食べるのが良いと思います。

しかし今は物流が広がりましたから、日本で取れない時期に、とんでもない外国からどんどん運んできて、私たちは食べているわけです。

これは身体に良くありません。

日本人は穀物を食べていましたから、腸が外国の方より長い。

臼歯が発達している国の人と、肉を切り裂く犬歯が発達している国の人とでは、当然食べ物が違ってしかるべきです。

人体の組成・骨格は皆違いますから、当然その民族に適した食べ物があるはずで

その国その国の特徴を活かした民俗、その国独特の経済が発達しなければおかしいのではないかという結論に達します。

日本という国だけに絞ってみても、北海道と沖縄では違うのではないかと

関東と関西も違います。

皆それぞれ違うのだから、その地域地域に通用する考え方も必要であろうし、貨幣も必要であろうという事になるのです。

その地域にだけ発達する経済が、これからの経済学の基本でなければならないという考え方で、日本民俗経済学会が成立しています。

生まれてまだ10年くらいの学会ですので、これからだだと思います。

こういう考え方は、世界各国で生まれつつあると思います。

ただ経済学と同時に、環境問題というものは世界的な視野で考えていかないと、ある日突然地球がなくなるという事もあり得ますから、そこらへんの危機感を持って我々は生き

ていく必要があるのではないかと考えています。

今回誕生した安倍内閣がどのようにこれからの日本をリードしていくか、非常に興味のあるところで、私自身の判断で申しますと、安倍内閣というものは昔型の発想で生まれたと思います。

小泉内閣を踏襲したものは、自分の眼で見、自分の耳で聞き、自分で体験したものを尊重している点です。

言い方を変えると、自分を支援してくれた人間を仲間に入れて信頼する人間で固めた。

これは「意中人有り」という動きをしたわけです。

“派閥が推薦したからこの人を大臣にしよう・・・”というものではありません。

自分が眼で見て、自分が耳で聞いて、自分が会って、“この人は良い”と思った人のみを採用した。

自分に対して牙を剥いている人間は入れない。

昔に戻ったけれども、自分の意思を強烈に主張するという小泉型は踏襲したわけです。

ですから社会常識を持っている人、“悪いと思った事は悪い、良いと思った事は良い”というように、生まれ育った従来の常識をそのまま実行しようとする人だと感じます。

ちょっとおかしいと思っても、回りの情勢を見ながら自分の人生を決めていこうというものとは、違った内閣が出来てくると思います。

当面マスコミは、どっちつかずの論評をするでしょう。

だんだん安倍さんのやり方が明確になってくるにつれて、パッシングが始まるだろうと思います。

鳴りを潜めている政治家たちも、おかしいと声を上げるでしょう

比較的早い段階で、そういったパッシングが起きると思います。

それを乗り越えれば長いでしょう。

ただし早々となくなる気がしません。

なぜなら一般大衆は応援するのではないかと思います。

小泉さんのスタイルとは全く違うけれども、若い頑固親父が出来たので、長いような気がします。

その判断基準は、おじいさんおばあさんが持っている常識をそのまま現在に復活させようという内閣が誕生したように見えます。

ここ3ヶ月間くらいが興味のある時期だと感じました。

本日の群馬フォーラムは以上で終了です。
有難うございました。